

■指導の流れ

実習は、データベース学習ツール「sAccess」<http://saccess.eplang.jp> を用いて行う（“プリセット DB”ではなく、“オリジナルデータ入力”をする必要がある）。

第1時「選択・結合など、関係データベースを知る」

[目標]

- ・sAccessにて、選択・射影・結合などを目的を持って用いる。

[指導計画]

- ①身の回りのデータベースをあげる。
- ②教員のsAccessでの“所蔵資料リスト”の「著者名での選択」を見る。
- ③sAccessで“所蔵資料リスト”と“貸出回数データ”を結合する。
- ④結合したデータから「1度も借りられたことのない本」を選択する。
- ⑤射影によって、貸出回数データが0のフィールドを削る。

第2時「貸出記録がプライバシーだと実感する」

[目標]

- ・貸出記録から、趣味嗜好をある程度が推定できることを理解する。
- ・「貸出する」ことができる。
- ・図書館の貸出記録などに対するポリシーを知り、「貸出記録は生徒が見るべきではない」ことを理解する。

[指導計画]

- ①sAccessで結合・選択・射影し、「貸出中資料一覧」を作成する。
- ②借りている本からどんな人か分析し、プライバシーであることを実感する。
- ③“貸出記録”のレコードを削除し、「返却する」。
- ④“貸出記録”のレコードを追加し、「貸出する」。
- ⑤「自由宣言」など図書館のポリシーを司書教諭・学校司書から聞く。

第3時「正規化・主キー」

[目標]

- ・所蔵資料リストを、“著者名リスト”などへ正規化することができる。
- ・主キーの必要性について、選択肢から正答を選ぶことができる。

第4時「データマイニングをグループワークする」

[目標]

- ・問題解決で「学校図書館でのデータマイニング」を体験する。
- ・「学校図書館でのデータマイニング」について考えることができる。
- ・「プライバシーやデータマイニングを意識するために、あえて貸出記録を使った」ことを理解する。

[指導計画]

- ①“貸出記録”のレコードをすべて削除しないで、「返却する」。
- ②貸出記録でどんなことができるか考える。
- ③“返却後もレコードすべてを削除していない貸出記録”の分析をする。
- ④ポイントカード・ビッグデータなどの教員の説明を聞く。
- ⑤ジャーナルデータ（バックアップ）の存在を知る。
- ⑥「学校図書館でデータマイニングする是非」をグループワークする。